

令和6年度 第15回仙台城跡調査・整備委員会 議事録

- I. 開催日時 令和6年8月27日(火) 10時00分～11時30分
- II. 開催場所 仙台市博物館 1階ギャラリー
- III. 出席委員氏名 (会場にて出席) 藤澤敦委員(委員長)、北野博司委員(副委員長)、
安達幸信委員、大山幹成委員、籠橋俊光委員、渋谷
セツコ委員、深澤百合子委員
(WEBにて参加) 風間基樹委員、山中稔委員
- IV. オブザーバー 宮城県文化財課 村上技術主任主査、大沼技師
- V. 事務局職員 (教育局生涯学習部) 伊勢生涯学習部長
(教育局文化財課) 関根仙台城史跡調査室長、鈴木災害復旧担当係長
(文化観光局観光課) 日下課長
(建設局公園整備課) 小山課長
(青葉区公園課) 降幡課長
(青葉区道路課) 佐々木課長
(仙台市博物館) 樋口副館長、水野室長
- VI. 会議の次第
1. 開会
 - (1) 部長挨拶
 - (2) 新委員の紹介
 - (3) 委員長、副委員長の選出
 2. 議事
 - (1) 仙台城跡整備事業について
 - ・ 令和6年度大手門跡発掘調査の成果 (資料1)
 - ・ 近年確認された大手門関連資料(報告) (資料2)
 - (2) 災害復旧事業について
 - ・ 災害復旧の進捗と災害復旧部会について
 - ・ 被災メカニズムと現代工法について
 - ・ 災害復旧方針とその詳細について } (資料3)
 - (3) その他
 - ・ 「史跡仙台城跡保存活用計画」の自己点検 (資料4)
 3. 閉会
- VII. 傍聴人 ー

※会議録の署名について委員長は籠橋委員を指名

- 1 開会 (1) 部長挨拶
(2) 新委員の紹介
(3) 委員長、副委員長の選出

2 議事

(1) 仙台城跡整備事業について

【資料1】に基づき事務局より令和6年度大手門跡発掘調査の成果について説明

委員長：現場視察の内容も含め、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

北野委員：側溝のプランが想定通り出てきたという事であるが、西側の脇櫓と側溝が平行しないことに関して、資料1-5 写真24・25を比べた時に、脇櫓のプランがもともと菱形になっていたのだろうか？合致しないように見える。

事務局：よく見ると写真25については、西側の壁がこの角度から撮影しても見えないため、おそらく鋭角になっている。一部の図面だと、若干ゆがんでいる図面もあり、雨落ち溝自体が鋭角に少し曲がるという状況からすると、本来の脇櫓は菱形の櫓だったと考えられる。

北野委員：それに関連して、屋根が入隅になる部分の側溝の幅が広く検出されており、これは軍隊時代の図面と一緒にあるが、この部分は水溜めのようにになっているのかどうか、幅が広いことで、水が集まるところの雨水を十分受けたとは思いますが、深さがこの分深いのか同じレベルなのか、ボーリングステッキを刺す等して確認すると良いと思う。幅が広いことで十分水は受けられると思うが、深さの点で何か工夫があるかを確認しておくと思う。

事務局：ご指摘の点も含め、できる限りの調査を進めていきたい。

委員長：二の丸の図面だと、こうした要所要所が柵状になっている部分は絵図で水溜めと書いてあり、調査すると一段深いことがよくある。そういう機能があるかどうか、確認できると良いと思う。
確認であるが、調査区の1区は全面調査するのではなく必要に応じてトレンチ状に調査するという理解でよいか。

事務局：北東部側に、道路に直交する形でトレンチの設定を考えている。攪乱の状況を見て、間に調査区を入れて追加で調査していきたいと考えている。

委員長：脇櫓の北側には米軍の鋳鉄管が脇に入っているが、現在脇櫓が乗っている石垣の基礎がどういう理由でいたんでいないのか、或いは根石がどうなっているのか、将来の復元整備の際に非常に重要になると思う。安全な範囲で調査していただければと思う。
今後調査成果の一般公開は考えているか。

事務局：一般公開を予定しており、日程は今後調整する。決まり次第お知らせする。

委員長：今回は調査途中であり、今後の成果は次回の委員会でもご報告いただけるということでよろしく願いたい。

渋谷委員：発掘調査現場の見学で、空いているところに瓦等が埋められた状態を見て驚いた。

戦後、焦土と化した中で大手門が焼け落ち、様々なものを片付けている中での気持ちの表れではないかと感じた。それも人々の大事な記念碑ではないかと思う。このような資料は何らかの形で残していただけたらいいのではないかと思う。

委員 長：発掘調査では、戦後の様々なことも含めた状態等をきちんと記録していると思う。ぜひよろしくお願ひしたい。

【資料 2】に基づき近年確認された大手門関連資料（報告）について説明

委員 長：先程実物もご覧いただきましたが、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

籠橋委員：現存している、例えば松音寺や知事公館の仙台城の城門と言われるもの、松音寺だと若林城の城門というふうに言い伝わるものであるが、それらとの比較は行っているか。

事務局：これから類例調査を進めていきたい。

籠橋委員：他城郭の類似例も必要になると思うが、仙台城に関連する現存するものがあるため、そちらとの比較をぜひお願ひしたい。

北野委員：この金具が柱側というのは疑問である。柱側の金具だと、へそが出ているはずだが、この金具は穴だけである。そのような金具は上側につく扉側の金具の特徴だと思っていた。それと、資料 2・第 2 図の大扉の写真だと、八双金具には 2 つ釘がある。脇扉の写真は小さく見えづらいが、脇扉であれば釘が 1 つということはないだろうか？

事務局：資料には掲載していないが脇扉をもう少し近くで撮影した写真があり、確認すると二つ見えた。そのため、一つだと柱側ではないかと想定した。

北野委員：柱側の金具だと、へそがなくても大丈夫だろうか。普通柱側は金具の常盤は下側にあるため、へそがついており、そこに扉の金具の常盤が上にかぶり、それで蝶番になるはずである。脇扉の八双金具の釘の数を確認する事と、構造上問題点があるように思うため、再確認をお願ひしたいと思う。

事務局：ご指摘の点も含め今後調査を進めていきたい。詳細が判明したら委員会でご報告する。

委員 長：新たな資料が出てきて非常にありがたい状態である。それに伴い調べる必要があることも増えてくると思う。今後の調査体制も含めてよろしくお願ひしたい。こちらについても今後の調査を通して詳細が判明したら随時委員会でご報告いただくということでお願ひしたい。

(2) 災害復旧事業について

【資料 3】に基づき事務局より①災害復旧の進捗と災害復旧部会について、②被災メカニズムと現代工法について、③災害復旧方針とその詳細について説明

委員 長：これまで災害復旧部会で検討していきながら進めてきた事をまとめてご報告いただ

いた。わかりづらい部分もあるかと思いますが、なにかございませんか。
確認であるが、資料 3-8 の裏面の 3. 中門石垣の②北側石垣の中の 4 つ目の文章に
「補強ネットを設置する」という記載があるが、この補強ネットとはジオテキスタイルという理解でよいか。

事務局：その通りである。

委員長：同じ文章の中で書き方が変わっていたため確認をお願いしたい。今回の委員会で特にこの工法についてご了解いただければ基本的にこの工法で今後進めていき、実際の施工上細かな問題が出てきた場合は、部会の方で検討して進めていくということになると思う。オンライン参加の風間委員、山中委員、補足やご意見等ございませんか。

風間委員：資料の中に方針等も具体的に書かれておりまとめられている。特にありません。

山中委員：特にありません。

北野委員：対策等に異存はないが、このままだと誤解されかねないと思う部分がある。資料 3-7 の図 5-4 で、本丸北壁石垣の平成 15 年修復と、本丸北西石垣の平成 27 年修復を対比しているが、本丸北壁石垣修復の時は安定領域にジオテキスタイルを定着させて施工したから今回被害はなく、本丸北西石垣は安定領域に定着させておらず、裏込め石の中だけに敷いたため、このような被害があったという単純な説明のように読める。両方の違いは、本丸北壁石垣修復の場合は、ジオテキスタイルを安定領域に入れるため遺構である背面盛土を発掘調査で記録保存し、最終的にはその遺構を破壊したという施工方法であった。平成 27 年の本丸北西石垣修復の場合は、背面の遺構を保護するためにジオテキスタイルを裏込め石の中だけに施工せざるをえなかった。また安定計算も行っており、設計上安全率をクリアした上で施工している。こちらは遺構が守られており、構造体としての安定性と、歴史の証拠という遺構保存のバランスの中で、それぞれ工法を決めていくが、この資料だと単純に東日本大震災の復旧工事は、安定領域にジオテキスタイルを定着させずに工事を行ったため悪かったと読めてしまう。遺構を保護して工事したことも、安定性と歴史の証拠の二つのバランスの中で工事方法を決めるという観点では、そこを評価し、安定計算も行ったことを書いておかなければ、当時の設計に携わった人の立場を考えると一方的な表現であり誤解されかねない。そこを正しく評価した資料にして欲しいと思う。

委員長：補足的なご説明だったと思う。本丸北壁石垣の場合は、修復の工程の関係で背面の一部を破壊せざるをえない工事方法が当初から前提として進められていた。その部分は記録保存を行い積み直したため、こういう工事ができたという経緯がある。その局面での遺構の保存と安全の最大限のバランスを取り行ってきた事をご理解いただければと思う。

大山委員：ジオテキスタイルの耐久性や本来の性能をどの程度の期間維持できるという想定か。

事務局：メーカーに確認してもはっきりとはしない。紫外線等が当たるわけではないため、それほど劣化は見られないと思っている。施工上ジオテキスタイルの上面に石を転圧していくため破損する可能性もあり、設計上では 2~3 割程破損するという想定で設計している。経年変化までは設計で考慮していないが、実際劣化することや何年で交換が必要といった話は聞いていない。

委員 長：現状で考えられる最善の方法を検討したとご理解いただければと思う。

渋谷委員：北野委員のお話を伺ったの質問であるが、資料 3-7 図 5-5-2 のところで、2 種類の石垣の標準断面図があるが、E 面のみ違う工法を用いるのは背面盛土内にある歴代の石垣の保護と何か関係はあるか。

事務局：E 面のみ写真で見られるような、背面盛土内に歴代の石垣の石材がある状況で、これは他の C、F、G、H 面ではみられない。鉄筋挿入工は、ボーリングのように砕きながら掘り進めていくため、石材を保護したいという思いがあり、E 面のみ工法を変えた。

委員 長：災害復旧事業について、以上の説明でご了解頂きたい。

(3) その他

【資料 4】に基づき事務局より「史跡仙台城跡保存活用計画」の自己点検について説明

委員 長：保存活用計画に基づく点検結果の報告であった。この委員会で報告を受けチェックするというところでお願いします。

深澤委員：地震やコロナで大変な中、頑張っておられるのがよくわかった。発掘調査現場を見せて頂き、今後の発掘調査の予定がどうなっているのかが気になった。今後脇櫓の下は櫓を壊して調査する予定か。

事務局：櫓が建っている状況であり、脇櫓を一度取り壊して再建するかは、今後大手門の復元を目指す中でも検討が必要な部分である。仮にとり壊すという前提で脇櫓を建て直すとなった場合は、壊した際に当然発掘調査は必要になると思う。時期については、現段階では明言できない状況である。

深澤委員：もし脇櫓を建て直すとなれば、壊した後には当然何らかの調査はすることになるという見通しの話だと理解した。

事務局：整備基本計画を作成する段階で、大手門は今後復元を目指すということにしたが、復元されるとなると、今建っている脇櫓の形状では大手門を再建できないため、大手門を復元するためには、脇櫓を一旦更地にしなければならない。その際は調査が必要だという意見が出ていた。

委員 長：点検ということですので、保存活用・整備も含めた事業全般にわたる話になると思う。感想的なことも含めてございましたらお願いします。観光客はコロナ前の水準に戻ってきたということによいか。

事務局：当課で仙台城見聞館という施設を所管しており、そちらの入場者数を記録しているが、昨年度はコロナ禍前の水準まで戻っている。今年度についても毎月統計を出しており、今後コロナ前を超えていく可能性があると考えている。

北野委員：保存活用計画と整備基本計画の見直しの項目で、未着手の部分に両方とも印がついているが、該当しない部分だと思う。整備基本計画の方は備考欄の改善策に、「8 年から 12 年に実施する予定であるが、状況の変化等あれば適宜見直しをする」とあるが、令和 12 年度には次期整備基本計画を立てることを記載して良いように思う。保

存活用計画は、特に大きな変更がなければ継続でいいと思う。

事務局：ご指摘の通り整備基本計画はその時期に見直すことを考えている。書き方については「見直す」と書くべきだったと思う。

【追加資料】に基づき事務局より MONKEYMAJIK 史跡仙台城跡 PR アンバサダー就任（記者発表資料）について説明

宮城県：昨年度と今年度の発掘調査で焼失前の大手門の礎石跡や脇櫓の側溝の位置等が判明し、江戸時代から現代までの大手門周辺の状況が具体的にわかったというのは大きな成果だと認識している。その上で事務局からの報告にもあったが、近世の状況がまだよくわかっていないのが課題であると思う。近世の遺構面の把握や、今年度の調査区であれば近世の脇櫓の側溝がどのようなものであったかということがあると思う。その解明に向けて検討をお願いしたい。また、現地説明会を行うということで、幅広く周知していただきたい。大手門に関する資料も発見が相次いでいるため、その調査成果も幅広く周知して頂きたい。

事務局：次回の第16回委員会については、災害復旧や史跡整備の進捗にあわせ12月頃の開催を予定している。日程については改めて連絡する。

3 閉会